「御祭礼諸事留」（国富文庫〇九一・五・一）
から、町触れの翻刻文

東照宮御祭禮ニ付
来ル十六日ら十七日晩迄
神輿御通筋死人其外
穢敷者通り申間敷候
少し之間横ら通し
候事茂かたく仕間敷候

一御祭禮御當日拝見人
御旅所ニ而垣之内江入れ
申間鋪候

一御通筋町々世話焼
役人指出行儀等可
申付候

一供奉衆中供立國清寺
前又者御旅所江酒商人
堅く参間敷候

一十六日晩ら十七日昼も
町中立番出し火用心
弥以念入不沙汰
無之様ニ可致候外町ハ
拝見ニ罷出候跡別而
念入可申候

右之趣町中可被
相觸候以上

四月十二日　山根惣右衛門

右之通被　仰下候間
諸事御本文之趣御心得
町内不残御申聞火之元
重々念入候様可被
御心付候以上

國富源次郎

印

西大寺町（印）上之町（印）
中之町（印）　石関町（印）
下出石町（印）中出石町（印）
上出石町（印）小畑町（印）
廣瀬町（印）　難波町（印）
下市町（印）　瀧本町（印）
丸亀町（印）　富田町（印）
岩田町（印）　萬町（印）
野田屋町（印）桶屋町（印）
柿屋町（印）　山﨑町（印）

御役人中